



2018年11月13日

各 位

会 社 名 トレイダーズホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 金丸 勲
(JASDAQ・コード 8704)
問合せ先 執行役員 CFO 朝倉 基治
(TEL 03-4330-4700 (代表))

営業外収益、営業外費用及び個別決算における特別損失の発生 並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2019年3月期第2四半期連結会計期間（2018年7月1日～2018年9月30日）の連結決算において営業外収益及び営業外費用の計上並びに個別決算において特別損失を計上するとともに、2018年5月15日に公表いたしました2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）について修正することとしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、個別決算における当該特別損失は、連結決算において全額消去されることから、連結業績への影響はございません。

1. 営業外収益の発生について

・受取保険金（連結）

当社子会社である株式会社ZEエナジーが2016年12月12日に発生した発電装置設置の際に生じた事故による損害金を保険会社に請求しておりましたが、2018年8月7日付で同保険会社より13百万円支払う旨の通知を受けました。当第2四半期連結会計期間において、同受取保険金13百万円を営業外収益に計上いたしました。

2. 営業外費用の発生について

・為替差損（連結）

第2四半期連結会計期間において、当社及び当社子会社が有する外貨建て債権及び外貨建て債務に係る為替差損10百万円を営業外費用に計上いたしました。それにより、第2四半期連結累計期間の為替差損は23百万円となりました。

3. 個別決算における特別損失の発生について

・貸倒引当金繰入額（個別）

当社子会社である株式会社ZEエナジーに対する貸付金等の債権に関しては、個別決算において第1四半期連結会計期間末までに2,199百万円の貸倒引当金を計上しておりますが、当第2四半期連結会計期間において、同社の債務超過額が増加したことに伴い、貸倒引当金繰入額94百万円を特別損失として計上いたしました。

上記のとおり連結業績への影響はございません。

4. 連結業績予想値の修正

2019年3月期の通期連結業績予想修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

（単位：百万円）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	2,380	△660	△620	△630	△6円17銭
今回修正予想（B）	2,820	△410	△510	△680	△6円56銭
増減額（B-A）	440	250	110	△50	
増減率（%）	18.5	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （2018年3月期）	1,728	△1,454	△1,693	△4,047	△46円44銭

<修正の理由>

当第2四半期連結累計期間（2018年4月1日～2018年9月30日）の業績動向を踏まえるとともに、連結子会社であったみんなのビットコイン株式会社（以下、「みんなのビットコイン」といいます。）の全株式を2018年10月1日に譲渡したことに伴い、2018年10月1日から2019年3月31日までに発生を見込んでいたみんなのビットコインの収益及び費用を削除いたしました。また、第4四半期連結会計期間に、国内及び国外の小水力発電所の転売等により200百万円の売買目的不動産売却益を見込んでおりましたが、売却益又は売買手数料の収益が200百万円程度に減少すると見込まれることから営業外収益を減額いたしました。

上記の影響を踏まえ、2019年3月期通期連結業績予想を検証した結果、2018年5月15日に公表した2019年3月期の通期連結業績予想（以下、「従来予想」といいます。）と乖離が生じたので、通期連結業績予想値を修正することといたしました。

営業収益は、従来予想2,380百万円から440百万円上方修正し、2,820百万円となる見込みです。これは主に、当第2四半期連結累計期間の実績が従来予想を419百万円上回り1,524百万円となったことによるものです。当第2四半期連結累計期間の実績が従来予想を上回った主な理由は、当社子会社である 트레이ダーズ証券のFXトレーディング収益が同期間において、新興国通貨等の取引が好調に推移したことにより従来予想を481百万円上回り1,457百万円となったことによります。

営業損失は、従来予想660百万円から250百万円赤字幅が減少し、410百万円の営業損失となる見込みです。これは主に、上記のとおり営業収益が増加したことで当第2四半期連結累計期間の営業損失が当初業績予想から159百万円赤字幅が減少したことに加え、みんなのビットコインが2018年10月以降見込んでいた費用等の発生が無くなったことによります。

経常損失は、従来予想620百万円から110百万円赤字幅が減少し、510百万円の経常損失となる見込みです。これは主に、営業損失250百万円の赤字幅減少及び当第2四半期連結累計期間の営業外費用の実績が持分法による投資損失の発生がなかったこと等により従来予想から40百万円赤字幅が減少したものの、営業外収益において上述の国内及び国外の小水力発電所の転売等により見込んでいた利益200百万円が200百万円に減額すると見込んだこと等によります。

親会社株主に帰属する当期純損失は、従来予想630百万円から50百万円赤字幅が拡大し、680百万円となる見込みです。これは主に、経常損失110百万円の赤字幅の減少があったものの、当第2四半期連結累計期間の実績において、みんなのビットコインの株式譲渡に伴い、当社子会社株式会社Nextop.Asiaで開発を行っていたみんなのビットコイン向け仮想通貨取引システムに係るソフトウェア仮勘定（資産）115百万円の減損損失を特別損失として計上したこと及び法人税等の増額40百万円を見込んだこと等によります。

以上

ご注意：本資料に記載しております業績に関する予想値は、いずれも本資料の発表日現在において入手可能な情報による判断及び仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合がありますので、予めご了解ください。